

番号	意見	当日の回答	区役所の対応・考え方	担当課
1	小学校の英語授業について、知人の教師によると、教師の英語のスキルは基本的なもので小学生に教えられるスキルまでない状態で、国の教育方針で教えざるをえない状態と聞いた。子どもにとってはクオリティのある教育が受けられない。小学校の英語教育への改善案や外部や外国籍の先生を入れてレベルを上げることがあるのか。	最初は教員の英語力が必要であったが、現在は、小学校の英語教科書がデジタル化されており、デジタル教科書、指示手順があり、一定のクオリティが保たれている。 週1回程度の派遣教師の授業やデジタル教科書でのひとり1台端末で自主学習もできるため全ての教員に特別な英語力が必要な状態ではない。 経年テストは7～8割がリスニングテストであり、中学校は読み書きだが、小学校は聞いて慣れ親しんだものを書き写すリスニングに力を入れている。	同左	協働まちづくり推進課
2	中学校の部活動に関して、学校の先生が部活動の指導をされているが、外部のプロを招いて部活動を教えては。先生は時間の拘束や責任に関しても外部の方の導入で改善できるのではないか。	部活動については、文部科学省は令和5年から外部指導員の配置を進めるとしているが、実際はそれだけの指導員が集まらない状況で難しい。 教員への負担を考え、外部の先生がするべきや部活動の指導もあわせて先生がすべきなどいろいろな意見がある。 今後、方針が必要と考えている。	同左	協働まちづくり推進課
3	学校選択制アンケートの資料について、港区では学校選択制を選ぶ理由が他の6区と比べて、「児童・生徒数や学級数が多いこと」と回答した保護者が多かったということか。	学校選択制を選ぶ理由が港区では他区と比べて「児童・生徒数や学級数が多いこと」が多くなっている。 港区は学校選択制により単学級になるなど24区で一番影響が大きいと思われ、学校選択制アンケートの分析と課題をまとめ、対策をワーキンググループで本格的に検討していきたい。 現在単学級である築港小と築港中は小中一貫による特色ある学習内容とし、対象生徒の範囲を大阪市全体に広げることができないかと考えている。 単に児童が少ないからひとつの学校を失くして統合ということにすると将来の希望が薄まり失望感が街に広がってしまいよくない。 港晴小・八幡屋小・池島小の推計をみると、統合するなら3つを1つにしないと単学級は解消できない。 少ないから統合ではなくて、万博以降の発展を見据えて、未来に希望のある新しい学校を作ろうというのを皆さんに相談したいと思っている。例えば、八幡屋エリアは入舟公園や近隣センターの敷地で港中学と向かい合わせで、小中一貫の新しい学校を作るなど、アイデアではあるが、PTAや保護者の皆さんの話を聞きながら、希望の広がる学校を作りたいと思っている。	同左	協働まちづくり推進課